

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (北陸)	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 (店長)	・大まかには景気が良くなっていると思う。8月のように週末ごとに台風が来るようなことがあれば一時的には悪化するが、全体としては非常に景気が回復してきていると思われる。
		一般小売店〔鮮魚〕 (従業員)	・当地に限っては、環境のうわべだけでなく、もっと底の部分で上に向かう気配が感じられる。
		百貨店(営業担当)	・一般の消費者については、買い控えがそろそろ限界にきているのではないかと。一部の高額所得者の中には、かなり高級な、昔で言うぜいたく品と言われている購買行動がみられるが、全体の底上げはまだだと思ふ。一部の層がかなり高額品に購買を示し始めているということからすると、今までよりはやや明るい兆しかなという気がする。
		家電量販店(店長)	・来客数は変わらないが、商品単価のアップは大きく見込めそうである。
		乗用車販売店(経営者)	・各メーカーで宣伝量が多くなり、新型車の発表も予定していることから、状況は少し良くなるとみている。
		乗用車販売店(役員)	・専売扱いの新型車種が発売され、受注も順調に伸びているため、メーカーからの在庫状況にもよるが、9月以降下期には期待できる状況である。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・前年より早く秋めいたおかげで季節衣料、寝具などを中心に、需要が高まっている。しかし、このところの円安、ドル高報道が手痛い。
		タクシー運転手	・来月からいくつかのイベントがあり、それに期待している。
		通信会社(役員)	・年末に向けてテレビの買替え需要が増加する時期であり、これに合わせた新たな契約の獲得増に期待している。
	通信会社(役員)	・娯楽サービスであるケーブルテレビの加入も徐々に増えているところを見ると、客の意識が変わってきているように感じる。	
	住宅販売会社(経営者)	・消費税率10%への引上げ予定の影響で、駆け込み客の動きが活発化する。	
	住宅販売会社(従業員)	・消費税率10%への引上げ予定と、来年3月の北陸新幹線開業で、より客の動きが活発になってくる。	
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕(店員)	・現在、客の動きが横ばいのため、年末に向けて良くなると思えない。一時の動きを期待するがそれは時期的なものであり、景気が左右するほどのものではないと思う。
		一般小売店〔書籍〕(従業員)	・物価が上昇しているが家庭の収入は大半が増えておらず、現状と変わらない。
		百貨店(売場主任)	・大きな期待感が乏しく、株価が高値安定に入る12月以降でないと活発化しないであろう。
		百貨店(営業担当)	・北陸新幹線開通に向けて、リニューアルオープンしているショップが多々あり、そのショップに合わせて客の動向も、購買意欲が増すと考える。
		スーパー(店長)	・ここ数か月間の推移をみても、あまり変わらない状況にあり、この先も現状とあまり変わらないのではないかと思う。
		スーパー(店長)	・ここ最近の状況では、今年は特に台風などの天候不順があり、野菜の相場は高騰し、水産物の入荷も不安定な状況である。それらの影響がかなり出てきているのが現状である。
スーパー(総務担当)		・売上高が前年を上回るようになってきたが、相変わらず来客数は前年を下回り、客単価の上昇でカバーしている状態が続いている。	
スーパー(総務担当)		・商品の値上げは今後も続くと思われるが、当面景気は現状推移と思われる。北陸新幹線開通により景気が良くなる面はあるが、それを除けばいずれ消費は少しずつ落ち込むように思われる。	
スーパー(統括)		・3か月後については、今の状況で言えば、良くなる状況の要素もないし悪くなる状況の要素もなく、先はみえない。このことにより変わらないとみている。ただ気になるのは、東京オリンピックや東北の復興で、トラックドライバーの賃金が上昇する中で、運送費の上昇がどの段階で食品の単価に反映されて物価が上昇するかということで、そうなると多少下がり気味になると思う。	
コンビニ(経営者)	・コーヒーなどは新規客もぼつぼつ来ているようで明るい材料だが、既存のコーヒーを買っていたが、100円のコーヒーが出たことによって、値段を下げて100円コーヒーを買う客もいる。また、目的買いをするだけという客も相変わらずいることにより、今後3か月は来客数は微増、客単価は今より微減するのではないかとということで、変わらないと思う。		

コンビニ（経営者）	・近隣に密集するかたちになった競合店とひとつのパイをめぐって、せめぎあいが増え続けているのではないかと懸念している。	
コンビニ（店舗管理）	・コンビニの主力商品のひとつであるカップ麺の値上げも予想され、消費者の価格への意識も高まる。安価に販売している業種に流れる可能性が予想される。	
衣料品専門店（総括）	・都会や大企業では所得が増えているようだが、中小企業で所得が増えなければ足元の景気が良くならない。	
住関連専門店（店員）	・年末に向け、本来家具の動きが活発になるところではあるが、食材の価格高騰や、年末から年明けに向けて家計の支出が大きくなる中、耐久消費財については買い控えが予想される。ここ数か月、単価の伸び悩みが続き、安価な商品に流れる傾向がある。	
その他専門店〔酒〕（経営者）	・いつも言うのだが、これ以上悪くならないということを前提として変わらないと言っている。	
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・給与所得アップが、消費につながっている感覚が足元にはまだない。バーゲンセールなどの売れ行きは依然として悪い。	
高級レストラン（スタッフ）	・観光シーズンに入るが、来年の北陸新幹線開通を見込んでか例年より若干予約が少なく、3か月先までの予約数は前年同月比98%の受注状況である。	
スナック（経営者）	・個々の客層や業種にもよるが、高齢の客が多い当店では頭打ちであり、期待ができない。	
観光型旅館（経営者）	・10月以降も団体を中心に取込みができており、前年より売上げが見込める。	
観光型旅館（スタッフ）	・9～11月の予約保有は前年比87～95%で推移している。北陸新幹線が開業する事による手控えも出ていると考えられる。	
都市型ホテル（スタッフ）	・円安が進んでおり、輸入品の値上がりが見止まらない。実質所得の伸びは一部の客のみ実感しているようで、身の回りで景気が良くなった実感はなく、食料品やガソリンなどの価格の高止まりで今後の景気は見通せない。	
都市型ホテル（役員）	・宿泊部門において、ビジネス客およびインバウンド客が増加傾向にある。レストラン部門は個人の慶事が増加傾向にあるが、レストラン婚礼の微減などにより、全体では景気動向は変わらない。	
タクシー運転手	・消費者の財布のひもはなかなか固く、タクシー利用という面に関してはシビアのように感じられる。特別大きなイベントがない限りは利用客は増えないと考えられることから、あまり変わらないと思われる。	
通信会社（職員）	・現状では右肩上がりは期待できないが、大きな落ち込みを予測させる要素も現段階ではない。	
通信会社（営業担当）	・人気機種が発売になり来客数は増加したが他の機種に動きがなく、前年と比べても販売量に変化がなく、今後も増加するとは考えにくい。	
通信会社（営業担当）	・新商品発表時期に差し掛かり、ボーナス商戦もあるため現状と変わらないくらいの販売が見込まれる。	
競輪場（職員）	・先月末に地元のビッグレースが終了し、今月は一段落した動きとなったが、年末に行われるビッグレースまでは同様の動きが継続する。	
その他レジャー施設（職員）	・10月に入会強化のための販促を強化予定。会員向けには継続啓蒙のイベントを実施し会員の減少をくい止める。	
美容室（経営者）	・特に地方においては、景気の回復が感じられない。	
住宅販売会社（従業員）	・リフォームを含め、受注額は消費税増税前の水準に戻りつつあるが、12月の消費税率10%への引上げの決断如何でどう動くか読めない。また、大幅な短期間の円安が資材高騰に拍車をかけており、収益面、決算数字の悪化は避けられない。	
住宅販売会社（従業員）	・契約件数、契約金額共に減っており、実家のリフォームと新築を比較する人も多くなった。景気が上向く雰囲気は全く感じられない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・客は、この先の景気が良くなるのかどうかを見極めようとしているようだ。買物は、必要なもの以外はあまり買わないようにしている。商店街の店主の話では、売上はよくなっていないとのことである。
	衣料品専門店（経営者）	・経費が上昇している割には、売上、利益とも確保できていない。非常に厳しい状態が続く。
	衣料品専門店（経営者）	・給料は上がらず物価は高くなり、先行きは期待できない。ガソリン高と、寒さに向かって灯油高が消費者心理を悪くしていくと思われる。お金を持っていて気分が良ければ、羽を伸ばすようにもなる。
	乗用車販売店（従業員）	・人員不足もあり、しばらくは厳しい状態が続く。

		自動車備品販売店（従業員）	・商戦期の商材が滞留しており、冬商戦に向けた新規導入が厳しい。頼りのスタッドレスタイヤも前年の暖冬から、買い控えの声もすでにあり、厳しい状況が予想される。
		一般レストラン（店長）	・消費税増税の影響は想定内かと思ひ、希望的に見ていたが、持ち直しの兆しがみられない。
		一般レストラン（統括）	・外食産業において来客数、売上高はほぼ横ばい状況であるが、食材仕入価格アップや、円安による燃料費アップ等、営業利益を圧迫する要因が多い。さらに人手不足が深刻な状況で、営業状態を維持することが精一杯なため、人件費の高騰も食材以上に利益圧迫の要因になっている。
		旅行代理店（従業員）	・何とかこれまでの受注分の団体客で持っているが、こちらも仕入価格のアップ、バス代のアップ、急激な円安で収益率が落ち込んでいる。旅行シーズンが終わった後のこの先が怖い。
		旅行代理店（従業員）	・景気の悪化による冬期賞与への影響が懸念される。
		住宅販売会社（従業員）	・材料等の上昇があり、物価も上昇し個人消費も厳しくなることが考えられ、需要は減ると思う。
	悪くなる	商店街（代表者）	・さらなる消費税増税の話がそろそろ再燃し始めてきて、今後、一層の消費落ち込みが予想される。
		コンビニ（店長）	・いままで売上が保ってこれたのは夏の繁忙期があったからだと確信している。今後10月、11月と天気の影響などもあるが確実に今までより売上が下がり、前年比割れにおいても過去の実績からも悪化する。前年比割れが当然のようになっている現在、当業界で良くなることはあり得ない時代になってきた。
企業 動向 関連  (北陸)	良くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・9月に米国で、10月末には東京で展示会がある。この展示会により受注が増えると予想している。
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・数量面ではプラス方向だが、円安によるコストアップがあり、採算面の改善に向け、発注先と交渉するも、十分な回答が得られていない。新開発商品で、新価格を狙うことで、収支の改善をはかりたい。
		通信業（営業担当）	・システムの引き合いも徐々に増えてきている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・秋冬物の消費の状況に期待をしているところである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・消費税率が次の10%に引上げられるであろう来年10月に向けた影響の見通しはまだついていない。おそらくその影響が出るのは来年の4月以降ではないかと考えており、3か月後は今と変わらない状況になっていると思う。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から、状況は変わらないとみている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・輸出についてはここへ来ての円安傾向で、当面は安定的な受注量で推移していくとみている。
		精密機械器具製造業（経営者）	・今後の消費税増税問題を含め、販売量の傾向についてはまだまだ読めない感がある。また製造の方では、このところの円安の影響で、一部の原材料の値上げを容認せざるを得ない状況も起こっている。
		建設業（経営者）	・手持ち工事量は十分だが、交通誘導員は1か月前から予約しないと確保できない状況である。そのために仕事にかかる日を遅らせなければならない現場も出てきており、これまでと同様ダンプトラックの不足も相まって、休日返上の作業が予想される。
		建設業（総務担当）	・業界全体の施工能力に余力がないことから、当面は受注価格競争の緩和状態が続く。施工能力が限界で、現状維持が精一杯である。
		輸送業（配車担当）	・今後急激に消費が拡大するとは、考えにくい。よってしばらく現状の状況が続くと思われる。
		輸送業（配車担当）	・ドライバー不足が深刻で、自車、他社利用車ともに不足しがちであり、募集しても人が集まらない。
		金融業（融資担当）	・足元がボトムとの考えや、10%への更なる消費税増税を決定する時期に向けた経済対策期待もあるが、一向に消費マインドが上昇していないことから、来春の賃上げの波及によるマインドの変化が起こるまでは、景気はなかなか上昇しにくいのではないかと考える。
		金融業（融資担当）	・北陸新幹線開業などの好感材料と消費税率再引上げによる景気後退懸念の両方がある。
		不動産業（経営者）	・先行きには少し期待感があったが、個人客からの情報も少なく、また、法人客も少なかったことから、状況は変わらないとみている。
			司法書士

	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・エネルギーコストの上昇と原材料の高騰が顕在化しており、かつ、低価格志向へシフトするなどの販売品目の構成の変化はすぐには変わらない状況である。こうした諸事情への対策の一つとしての商品の値上げも、当初は単純値上げ10%程度を見込んでいたにもかかわらず、周りを取り巻く環境から規格変更が主となり、実質的な効果は1/3程度と低くなっている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・業種問わず、チラシの出稿率は前年割れが続いている。チラシサイズも縮小傾向が続き、折込料単価を落とし、販促費を抑えている。この傾向は回復が見込めない状況にある。
		税理士（所長）	・消費税と円安により家計が圧迫されていることに加えて、日本国内での労働力の不足が目立っている。中小企業の現場からも言えることだが、外国人労働者の受け入れ態勢をもっと整備するなど、日本国内での工場が外国の企業も誘致できるような環境作りが必要ではないか。このままでは、富、財、知的財産も含めてどんどん海外へ逃げる心配がある。本当に心配である。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
(北陸)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・今後も求人数が求職者数を上回る状況がまだしばらく続きそうだ。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・北陸新幹線の開通により、当地駅前の各店舗で人の確保が予想される。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・相変わらず派遣希望の関心が薄れており、登録者数が激減している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人情数は週によっても変動があった。この状況がこの1か月に限ったことなのか、今後も続くかは注視が必要だが、求人市場のこの状況はしばらくは変わりがないと思われる。
		職業安定所（職員）	・求人窓口では人手が足りないとの話を聞くが、景気が良いといった話は聞かれない。
		職業安定所（職員）	・依然として材料費、燃料費の高騰により景気が良くなっている実感がないとの事業所の声がある。
		職業安定所（職員）	・製造業において、受注量はあるが、原油価格、輸入材料の高騰により原価額を価格に転嫁できず、利益面では下向き傾向にあるといった企業や、仕事が海外に流失し特殊な仕事や短納期の仕事だけが残り、収益が上がらないといった声が聞かれる。
	民間職業紹介機関（経営者）	・優良な人材の不足が続き、急な回復が見込めない。一方、求職者はいることからスキルの差が雇用の差につながっているとされる。	
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-